

小6 社会

クラゲチャートを使って自分の考えをつくる！ 番組と身近な例から児童の追究意欲を高める実践授業

授業者 | 熊本市立大江小学校 教諭 山田壽彦
考える授業やるキットプレミアム | 社会にドキリ「世界の国の人々」



「考える授業やるキットプレミアム」を初めて活用した、熊本市立大江小学校の授業の様子をお届け！授業者の山田先生自ら、実践レポートを執筆してくださいました。リアルな授業の様子だけでなく、教材のアレンジや活用ポイントなど、お役立ち情報が満載です！

授業の流れ

6時間目

ステップ1 つかむ <番組と身近な例から学習問題を設定する>

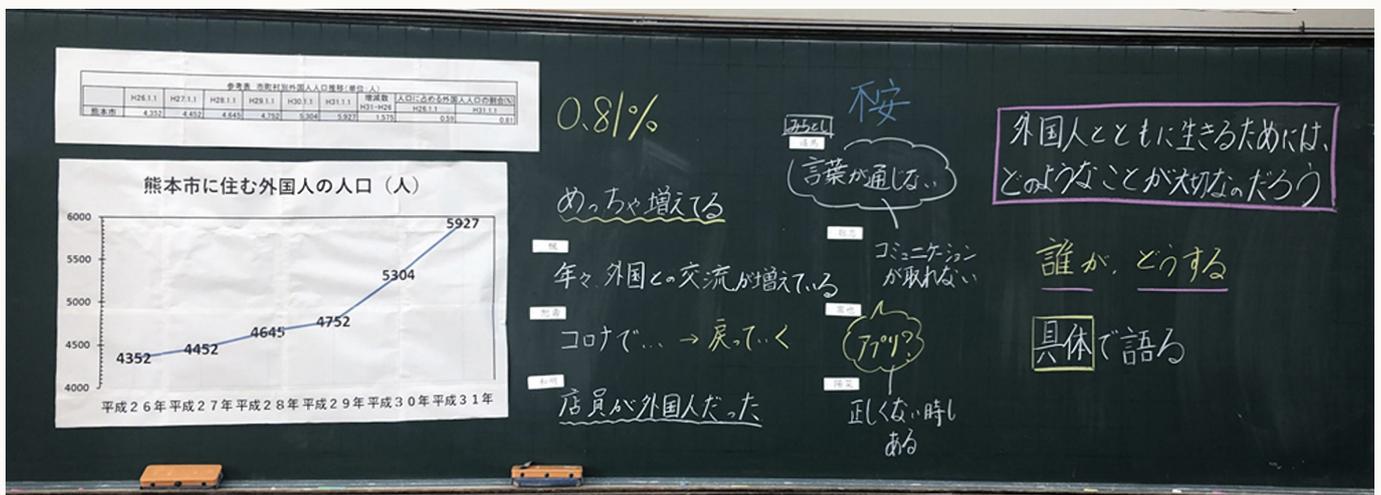
第6時の初めに、児童に「社会にドキリ『世界の国の人々』」の冒頭1分（町民の2割が外国人）を視聴させました。児童は日本の中で外国の行事がおこなわれていることや外国人がたくさん住んでいることについて驚きを感じているようでした。

「熊本市はどうだろう？」と投げかけると、児童からは「近くのコンビニで働いている」「熊本駅周辺でよく見かける」という声があがりました。熊本市の外国人とのつながりのイメージを聞き取ったところで、熊本市に住む外国人の人口の推移についてまとめた表とグラフを提示すると、「外国人がとて増えている！」という反応が見られました。

一方で、「コロナの影響で外国人が減っているんじゃないんですか？」という声がありました。熊本市国際交流振興事業団のHPに掲載されていた、「一時的に減ったものの、熊本市の少子高齢化の進展に対して、外国人住民数は再び増加していくことが予想されます。」という記述を紹介すると、児童は『今後も外国人との共生が求められること』に目を向け始めていきました。

ここで「外国人と一緒に暮らしていくことについてどう思う？」と問いかけると、「言葉が通じなくて、コミュニケーションが取れないかも…」という意見があがりました。このような反応を取り上げ、「外国人と共に生きるためにはどのようなことが大切なのだろう」という学習問題を児童と共有しました。

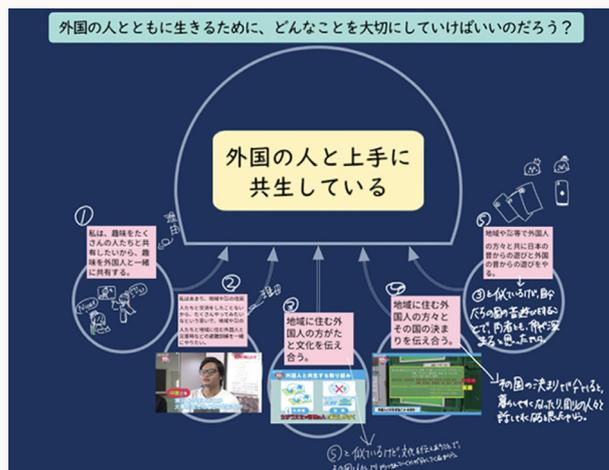
※この授業は2022年におこなわれたものです。



ステップ2 調べる <番組の残りを視聴し、わかったことをクラゲチャートに整理する>

学習問題の設定後、番組を最後まで視聴させました。学習問題の解決を意識しながら、キーワードをノートにメモする児童の姿が見られました。

動画を見終わったあと、やるキットプレミアムの児童配布用シートを児童に送り、シート内の活動の流れやクラゲチャートの使い方を説明しました。やるキットプレミアムを使うのは初めてでしたが、児童は日ごろからタブレットやロイロノートを活用した授業を経験しているため操作に慣れており、試行錯誤しながらもクリップや番組動画を見直しながクラゲチャートに書き込む姿が見られたほか、外国人との共生についてどんな工夫がされているのかをインターネットで調べる児童の様子も見られました。



児童が情報を整理している途中、自分たちの生活と動画の情報とを関連付けながら具体的に考えるよう、声かけをしました。これは、動画を見て個別の知識だけを獲得し、自分との関わりを見直さないことが考えられたためです。児童はこの指示を踏まえて、具体的な考えをクラゲチャートにまとめていきました。

クラゲチャートのまとめを終えた児童から、ロイロノートの提出箱機能を使って提出をさせました。中には「もう少し自分で取り組みたい」という児童もいたため、その子たちには放課後や休み時間に取り組んでよいことを伝え、後日提出させるようにしました。



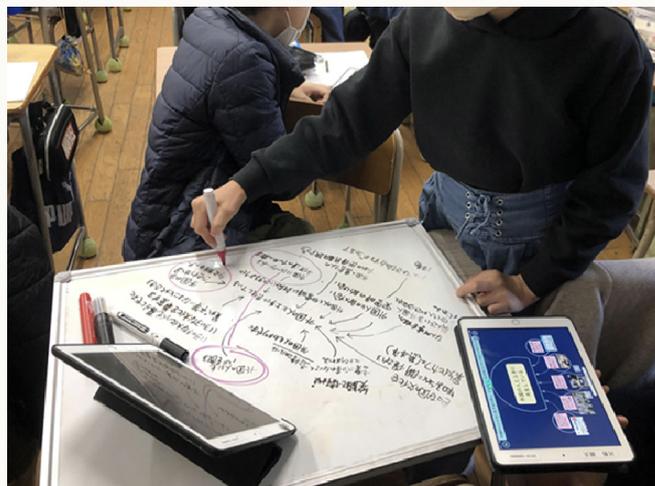
7時間目

ステップ3 Part1 考える <小グループで話し合う>

第7時には、前時に設定した学習問題「外国人と共に生きるためには、どのようなことが大切だろう」について話し合いをしました。授業の序盤に学習問題に立ち返させたあと、ロイロノートを使ってクラゲチャートにまとめたものを使いながら小グループで話し合わせました。

児童は回答共有された提出箱に出された友達の考えを基に話し合っていました。社会にドキリ「世界の国の人々」の動画だけでなく、インターネットを使って収集した情報を根拠として伝える姿もありました。児童は調べたことを基にお互いに話し合うことに没頭し、15分以上も小グループで話し続けていました。

また、本学級では必要に応じてホワイトボードを使いながらグループの友達と話し合ったことを整理するようになっています。そのため、話し合いの中で見いだした新しい考えをロイロノートやホワイトボードに整理していく姿が見られました。



ステップ3 Part2 考える <全体で話し合う>

その後の全体で話し合う場面では、以下のようなやりとりがありました。

児童：ごみの分別についてもルールが違うから、その国の字で書いておかないと外国人の人が困ってしまうんじゃないかって。

児童：もし、外国人が間違えて分別したら火事につながるかもしれない。

児童：ゴミの分別の話みたいに外国人は言いたいことがわからなくて言語で苦労しているから、工夫が必要だと思う。

児童：最近は翻訳アプリがあるから、外国人の人にもわかりやすくなっているんじゃないかな？

先生：なるほど。ほかの話題で話していたグループの人はいますか？

児童：外国人の差別があるから、それを防ぐためには交流が必要だと思います。

児童：熊本市の国際交流会館では、外国人との交流イベントをやっていて、自分も参加して韓国人と仲良くなりました。

児童：異文化カフェというのもやっているらしいです。
昼は日本語を使って、夜は英語を使う取り組みをしていたり、外国の遊びを体験できたりするって書いてました。

児童：なんか、面白そう。やってみたい。

児童：外国料理の店が熊本市にもたくさんあるから、これも交流につながるかもしれない。

児童：私もインド料理の店に行ったことがあるけれど、フレンドリーな雰囲気で仲良くなれそうだなって思いました。

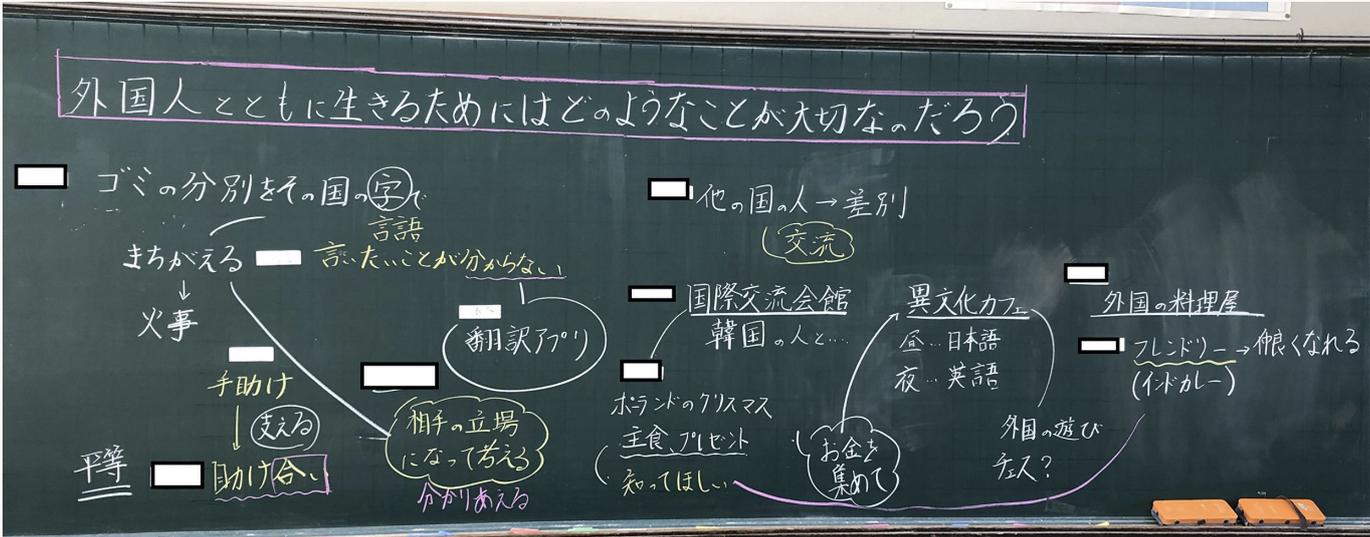
先生：これらの取り組みってなんでおこなわれているのかな？

児童：やっぱりその国のことを知ってほしいんだと思う。

児童：その国のことがわかると、手助けができるし。

児童：だから相手の立場になって考えることが大事なんだと思う。そうするとわかり合えるようになると思う。

児童：そもそも、手助けというよりも助け合いって感じなんじゃないかな？

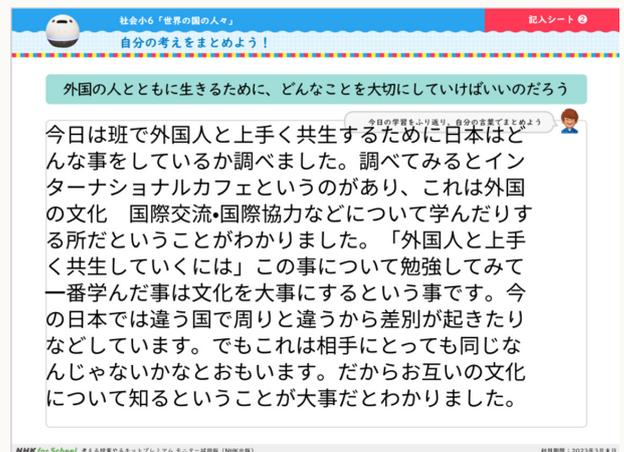


ステップ4 まとめ ＜学習問題に対する自分の考えを書く＞

全体で話し合う中で「言葉が通じないことに配慮すること」や「外国人と交流すること」が大切であるという発言がありました。特に外国人との交流について、話題が及んだ際には、熊本市内でのイベントや外国料理店の存在に目を向けながら、国際交流をすることの大切さを伝える複数の児童の姿が見られました。また、終盤では、その交流の中で外国人も日本人も平等な立場で接することが大事だと気付いていきました。



これらの考え・発言がつながってきたところで、学習問題についての自分の考えをやるキットプレミアムの「考えまとめシート」にまとめさせ、提出させて授業を終えました。



実践した先生から

やるキットプレミアムを使ってみての感想

今回はやるキットプレミアムの「社会にドッキリ『世界の国の人々』」という回を使って授業をおこないました。この回は、自分たちの住んでいる市区町村にもたくさんの外国人が暮らしていることや、外国人が暮らしやすいようにさまざまな配慮がされていることに気付きやすいような内容となっています。NHK for Schoolを活用することで、社会科見学をする時間を多くとらずに、子どもたちに情報を提供することができ、とても効果的だと感じました。現在コロナ禍で社会科見学をしにくい状況でもあるため、こういった番組の果たす役割はどんどん大きくなっていくと思います。

また、教材内では番組がいくつかの場面ごとに分けられているため、必要に応じて自分の見たい動画の場面を選択し、情報を収集しようとする子どもの姿が見られました。1枚のシートに動画やカード、思考ツールが貼り付けられているため、活動の見通しをもちやすく、使いやすかったです。この教材を使った初めての学習でも、児童が自分たちで活動に取り組むことができていました。

授業での工夫：「自分の考え」をつくらせるための声掛け

今回、児童には2種類の声かけを意識しておこないました。

1つ目は「自分の考えの根拠を明確にしよう」です。やるキットプレミアムでは切り分けられた動画と静止画が思考ツールのカードに付属しているので、それを活用しながら児童は自分の考えがどこに示されていたのかをクラゲチャートにまとめていました。

2つ目は「具体的に考えよう」です。動画には学習問題の解決のヒントになるような考えが多く示されているため、そこから情報を収集したものを発表するだけで終わる学習になることも考えられます。そこで、「それって、何のためにするの?」「どんなことにつながるのかな?」と、自分の考えをまとめる際だけでなく、グループや全体で話し合う際にも投げかけ、児童の思考がより深いものになるように促しました。

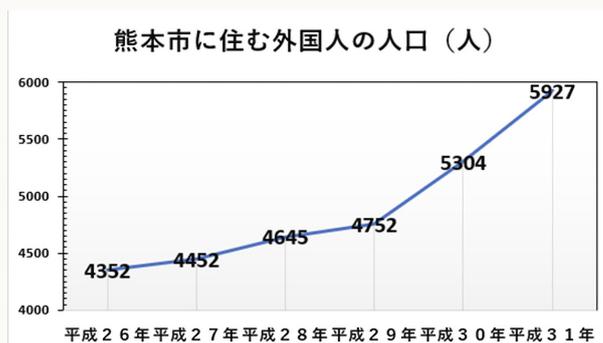
山田先生のアレンジ案：2時間構成でじっくり取り組む

教材に設定されている授業プラン案は1時間構成でしたが、アレンジとして2時間に設定しました。これは、児童に将来外国人と共生する必要性を感じてから問題解決に向かって欲しかったことと、情報を収集したりまとめたりとやるキットプレミアムを活用するには時間を要すると思ったからです。学習問題（第6時）から話し合い（第7時）までは1週間開けての実施となりましたが、児童はその間にクラゲチャートを活用して考えをまとめていました。時間が十分にあったからこそ、第7時にグループでの話し合いが活発におこなわれたと思います。

やるキットプレミアム活用のポイント

身近な例を提示する

児童が自分事の問題解決に向かっていくためには学習問題の設定に一工夫必要であると考え、最初に動画を全て見せるのではなく、冒頭1分を見せたあと、平成26年から平成31年（令和元年）までの熊本市に住む外国人の人口の推移（熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班より）についてまとめた表とグラフを提示しました。これは、自分たちの住む熊本市でも外国人が増えており、共生を考える切実感をもたせるためです。やるキットプレミアムだけでも十分に授業を成立させることができますが、身近な例の提示など、児童の追究意欲を高めるための工夫をすることで、より良い授業ができると思います。



ロイロノートの提出箱を活用

ロイロノートの操作に慣れていることもあり、児童は試行錯誤しながらも、自分たちで活動に取り組んでいました。自分の考えをまとめることができた児童からロイロノートの提出箱に提出させましたが、その際、それを共有して児童が自由に閲覧できるようにしておきました。これによって、イメージがつかなかった児童も皆の考えをヒントにしながら自分の考えをまとめることができていました。

